

「安全つうしん」

発行所：公益社団法人 愛荘町シルバー人材センター(安全委員会)
秦荘事業所：愛荘町安孫子1216番地-1 Tel 0479-37-8277
愛知川事業所：愛荘町愛知川13番地-2 Tel 0749-42-7079 (シルバーサロン)

安全委員長挨拶

安全委員長 林 吉次

年々暑さが厳しくなる中で、環境省は、過去に例のない危険な暑さが予想される場合、一段階高い特別警戒情報「熱中症特別警戒アラート」を発表することを決定しました。幸いにも県内では今のところ特別警戒アラートは発令されていませんが、従来の「熱中症警戒アラート」は毎日のように発令され、大変厳しい状況での作業が続いています。

暑いと注意が散漫になり、判断力も鈍り、事故のもとになります。水分と同時に塩分もとるようにし、少しでも変だと感じたら迷わず仕事を中止して下さい。お互いの声の掛け合いも大事なことです。

一人ひとりが日頃から休養を十分とり、体調管理に努め作業に当たりましょう!!

安全大会開催

令和6年3月22日(金)、ハーティーセンター秦荘にて令和6年度の安全大会を開催し、多くの会員の皆さんが参加されました。

滋賀県シルバー人材センター連合会主任の壺井大輝氏をお招きして「県内の最近の事故例と課題」と題してご講演いただきました。

続いて、シルバー会員で応急手当普及員の大鹿広氏に、緊急時の初期対応の実技指導を行っていただきました。また、愛知消防署の指導救命士の山田洸太氏に、訓練人形を使った人工呼吸の方法、AEDの使い方等、一次救命処置について実技を交えてご指導いただきました。

間近で実演を見た皆さんは、初期対応の重要性と有効性を学ぶことができました。

(裏面に関連写真)

「救命の連鎖」 消防署の救命講習用資料より抜粋



『今年度の安全標語』

- 【優秀賞】 藤居治行さん作
急いでも、一息おいて、まず確認
- 【佳作】 村上孝生さん作
安全は、「無理せず」「あせらず」「油断せず」
- 【佳作】 西山美千子さん作
「気がかり」は思っても声に出す

緊急時初期対応の実技指導の様子



(シルバー会員も参加した、大鹿会員による緊急時の初期対応の実技指導)



(愛知消防署の山田氏による訓練人形を使った人工呼吸の方法、AEDの使い方の実技指導)

今年8月発生の重篤事故事例の紹介

熱中症によって尊い命が失われる事故がありました。他県の事故ですが、同様のリスクが潜んでいます。複数人の作業の場合でも互いが視認できる位置で作業するように徹底してください。

(全国シルバー人材センター事業協会のニュースより抜粋、一部編集)

1. 事故の概要

午前8時から会員2名で除草作業を実施。9時半と10時半に15分程度の休憩を取った後、11時半頃に一方の会員が飲物が無くなったので、相方の会員に飲物を買ってくる旨を伝え作業現場を離れた。その後、昼食を済ませ午後1時頃に作業現場に戻った。現場に残っていた会員を探したが見当たらず、そのうち出てくるだろうと思い除草作業を進めていたところ、会員が倒れているのを発見した。水分摂取など十分に行われていたか定かではないが、就業中に一人になる時間帯があり発見が遅れた。

2. 事故の原因

- (1)事故発生当日の最高気温は約 34 度で、亡くなった会員は熱中症の危険性を認識していたと思われるが、水分補給等の予防策が不十分だった可能性が考えられる。
- (2)会員2名での就業としていたが、長時間一人作業となったため、具合が悪くなった会員の救護を速やかにできなかった。

3. 再発防止策

- (1)熱中症に限らず、会員が災害等に遭った場合に直ぐに発見されにくい就業場所においては、屋外・屋内を問わず、一人作業にならないようにする。
- (2)就業する会員は、作業を複数で行う理由と注意事項を十分理解して就業する。
【理由】熱中症や事故を防止するために会員同士で注意を払い、万一異常が発生した場合に速やかに対応するため。
【注意】作業・休憩は全員一緒に行う等、一人作業状態を作らない。